

## 「川のあるまち」―地名のことなど

越谷北高等学校長 下山 忍

学校の方に『川のあるまち―越谷文化（第31号）』という雑誌が送られてきました。越谷市教育委員会の発行になり、市民の手になる写真・スケッチ・小説・評論・詩・短歌・俳句・川柳・随筆・レポートなどが掲載されている文化総合誌です。何気なくページをめくっていたら、偶然に同級生の名前を見つけ、真っ先に彼の書いた文章を読みました。自然や小動物に対する愛情あふれる文章から、ともに過ごした学生時代を思い出し、彼と再会したようなちょっと嬉しい気持ちになりました。

さて、この雑誌の付録に、越谷市内の地名の由来を解説している「こしがや地名考」という別冊があり、なかなか興味深い内容でした。例えば、「越谷」という地名の由来ですが、越（こし）とは「川を越えた所」という意味で、川を越えて平野部にやって来た人々が、水田耕作に適した谷地を発見してそう名付けたとありました。

本校のある「大泊（おおどまり）」についても書かれていました。「大泊」の「泊」とは「津」と同様に港のことです。「海から離れているのになぜ？」と疑問を持つ人もいるかもしれませんが、港は海ばかりではなく河川にもありました。鉄道網が発達する前は、河川交通が非常に重要でした。「大泊」には、大落古利根川の入江の港という説もあるそうです。付近には「船渡（ふなと）」という地名もあり、こちらも舟の渡し場を表しています。

越谷市は、大落古利根川、元荒川、綾瀬川などに囲まれた沖積低地で、水の豊富な水郷地帯です。都市化の進展も中で、見た目には分かりづらくなっており、日頃は余り意識することも少ないのですが、地名から様々なことを想像するのは、とても心楽しいことです。

生徒の皆さんも自分の住んでいる所の地名を調べてみたら如何でしょうか。角川書店や平凡社から都道府県別の地名辞典が出版されており、その気になればすぐに調べられます。歴史をさかのぼった詳細な解説を読んでもみると、想像が膨らみ、いつも見ている風景もちょっと違って見える筈です。地名は立派な文化遺産です。住民に愛され、後世に伝えていってもらいたいと思っています。

